

令和6年(2024)8月教育委員会定例会 会議録

令和6年(2024)8月20日(火)午後2時00分、出雲市教育委員会定例会を出雲市役所3階大会議室に招集した。

(1) 会議に出席した者

教育長	杉谷 学
委員(教育長職務代理)	高橋 詠
委員	川田量子
委員	奥 康人
委員	布野和弘

(2) 欠席した者

なし

(3) 説明のため会議に出席した者

副教育長	金築健志
教育部次長(児童生徒支援課長)	山崎 創
教育部次長(学校教育課長)	矢田和則
教育政策課長	栗原真奈美
教育施設課長	古川 薫
学校給食課長	山内泰治
出雲科学館館長	鬼村修治
保育幼稚園課長	園山博之
出雲中央図書館長	黒田輝男
学校教育課主査	岩崎慎一
学校教育課課長補佐	園山正樹
児童生徒支援課課長補佐	小林 剛
出雲中央図書館係長	蒲生倫子

(4) 会議の書記

教育政策課主査	池尻精二
---------	------

(5) 傍聴者

0名

開会

(杉谷教育長)ただいまから、令和6年8月出雲市教育委員会定例会を開会します。本日の会議は、お手元に配付しております日程のとおりでございます。

1 教育長行政報告

(杉谷教育長)次に、「教育長行政報告」を行います。
(以下、報告項目のみ掲載)

① これまでの動向 (令和6年7月24日以降)

R6. 7.24	定例記者会見
R6. 7.25	第1回表彰選考委員会、第2回都市教育長会(大田市)
R6. 7.26	市長と校長会との懇談会
R6. 7.29	市議会全員協議会
R6. 7.31	コミュニティセンター運営協議会
R6. 8. 4	戦没者追悼式典(市民会館)
R6. 8. 5	県・市町村教育長会議、学力育成会議(松江市) 子どものセーフティネット推進計画策定委員会(松江市)
R6. 8. 6	出雲市フレンドシップ事業、中学生サミット
R6. 8. 7	出雲市教育政策審議会(出雲学校給食センター) 出雲市要保護児童対策地域協議会代表者会
R6. 8. 9	県知事・県教育長要望(県庁) 全国施設分離型義務教育学校の集い(江府町)
R6. 8.19	島根県部活動地域移行検討委員会スポーツ分科会(松江市)
R6. 8.20	出雲市教育政策審議会、教育委員会8月定例会

② 今後の予定

R6. 8.22	定例記者会見、小・中学校校長会
R6. 8.24	出雲市同和教育講演会(市民会館)
R6. 8.26	島根県競技力向上対策本部会議(松江市)
R6. 8.28	第2回表彰選考委員会
R6. 8.29	出雲市議会9月定例会開会、本会議、全員協議会
R6. 8.30	フィンランド共和国カラヨキ市派遣交流団員活動報告会
R6. 9. 3	出雲市議会9月定例会一般質問(~6日)
R6. 9. 9	出雲市議会9月定例会予算特別委員会
R6. 9.11	出雲市議会9月定例会文教厚生委員会
R6. 9.18	出雲市議会9月定例会決算特別委員会
R6. 9.19	出雲市議会9月定例会決算特別委員会
R6. 9.20	出雲市議会9月定例会決算特別委員会
R6. 9.24	出雲市議会9月定例会決算特別委員会
R6. 9.26	教育委員会9月定例会

2 会議録の承認

(杉谷教育長)続きまして、会議録の承認に入ります。前回7月定例会の会議録につきまして、ご意見等ございますでしょうか。

(各委員)なし。

(杉谷教育長)特にご意見等がありませんので、7月定例会の会議録については承認することといたします。署名を会議終了後をお願いいたします。

3 議事

(杉谷教育長) それでは、議事に入ります。まず、「議第32号 出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の辞任及び任命について」を議題といたします。教育政策課 栗原課長に説明をお願いします。

(栗原教育政策課長)(資料を用いて説明)

(杉谷教育長) さきほどの、説明に委員のみなさまから質疑がございませんでしょうか。

(各委員) なし。

(杉谷教育長) ないようでございますが、「議第32号 出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の辞任及び任命について」を承認することについて、ご異議ございませんでしょうか。

(各委員) 異議なし。

(杉谷教育長) 異議なしと認めます。「議第32号 出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の辞任及び任命について」を承認いたします。議事は以上でございます。

4 報告

(杉谷教育長) 続いて報告事項に入ります。「報告(1)「今後の市立幼稚園のあり方」の答申について」、報告させていただきます。保育幼稚園課 園山課長に説明をお願いします。

(園山保育幼稚園課長)(資料を用いて説明)

(杉谷教育長) 先ほどの報告につきまして、質問がありましたらお願いいたします。布野委員。

(布野委員) 幼稚園の存続もそうですが、保育園の待機児童が多いというのもそうです。確か、認定こども園の方針が出たのが、2008年かその辺りだったと思います。まだ、20年にはなっていませんけれども、なぜ、出雲市は認定子ども園をしなくて、今の存続を、幼稚園と保育園、どちらかというと保育園に軸足を置いて。子どもさんが増えてくると、幼稚園じゃなくて保育所へ行かれる。共稼ぎの関係もあると思います。保育園の方は子どもが増えて、現状を見さしてもらったときに、やはり保育と教育というのは全然違うと私は思っています。保育園は、クラスはありますけれども、人数が多いです。同じ年頃の子が、1つの教室に、多いところは30人近くいます。幼稚園になると多いところ

でも20人までいかないクラスだと思うのです。何をするにしても、やっぱり集団で、みんなとチームで何か劇をするなり、歌をうたうなりしたときに、幼稚園教育で教わった子どもさんと、保育園の子どもさんでは、少しちがうというのが私の実感です。これが各地区、どういうふうな形で出ているかわかりません。幼稚園は昼寝がないのです。延長する預かり保育のところは、多少の昼寝があります。ほとんど昼寝なしで、大体2時から3時まででうちへ帰っていくという形です。保育園の方は、給食を食べた後に、若干のお昼寝タイムというのがあります。幼稚園の子どもさんと保育園の子どもさん、幼稚園の卒園者と保育園の卒園者とは、多少のずれが見受けられるというところがある。私としては、今後、早めに子ども園の方へシフトしていった方が保護者のためにもいいと思います。幼稚園、保育所、小学校の3つの連携を前から謳っています。私から見るともうひとつ、何か成果が出ているのかどうかと疑問に思っております。わかっていらっしゃる方がいらっしゃったらお聞きしたいのですが。

(杉谷教育長) 園山課長のところで、答えられる部分があったらお願いします。

(園山保育幼稚園課長) 確かに、幼稚園と保育園の子ども、違いというのは、いろいろ感覚的なものもあるかもしれません。やはり教育と保育というところで違うという意見も確かにございます。先ほども言いました、前提として、平成30年度に保育所も幼稚園も、同じ教育指導要領で、目標が定められております。目標は一緒で、大きな違いはないというふうに思っています。出雲市がしっかり行ってきた幼稚園では教育もそうですが、研究とか、公開とかいろいろと横の連携で、制度的に役割を果たしてきたというのがあります。これが保育所までは行き届いてない可能性はあります。保育所側に聞きますと、保育所もしっかりやっていると、今は、教育保育の違いはないとおっしゃいます。それぞれの立場を尊重しながら進めていく必要があると思っております。認定子ども園化が進まない理由というところもありましたが、全国的には先ほど言われたように、平成18年からこの制度があって、子ども・子育て支援法が始まったところから全国的に増えているという状況があります。出雲市においては、市立の幼稚園が多いということもあって、保育所側も、ある程度躊躇した、配慮いただいていたようなところもあると思っております。認定子ども園化することで、幼稚園の定数が一気に減る可能性もあります。そういったところも含めて、今までは大きな動きになってないところです。今回の答申を受けて、民間からもそういった動きが出てくるのではないかというふうに思っております。全市的に、園児数、子どもの出生数は減っている中で、保育所の定員割れのところももう出てきております。経営の部分もありますので、新たな動きがあるのかなというふうに思っております。

(杉谷教育長) 保幼小連携につきましては、学校教育課ですか。

(矢田教育部次長) 保幼小連携につきましては進めていくということで、新しい計画を作り、進めているところでございます。政策を進めていきたいと思っております。

(金築副教育長) 保幼小連携について少し補足したいと思います。出雲市では、保幼小連携計画を作りまして、進めているところでございます。全市で、市立も、私立も幼稚園も保育所も一緒に揃ってという形で取り組んでいます。その中で、幼稚園ではアプローチカリキュラムと言ったものを2学期の9月ぐらいから始めます。保育所でも年長さんは、その頃から昼寝をやめられます。幼稚園の預かり保育でも、年長さんは最初の頃、お昼寝をするのですが、9月からお昼寝を止めるといった取組みをしています。小学校での生活を見越したスタイルに変えていきます。アプローチカリキュラム。各保育所、幼稚園も作って取り組んでいただいています。小学校では、入学したときも、最初の1学期ぐらいは、スタートカリキュラムという形で、若干保育所や幼稚園での生活スタイルを、少し取り入れながら、だんだんと学校生活に慣らしていくという、段差のない繋がりを、推進計画の中で、プログラムのモデルみたいなものを示しながら取り組んでいます。100%取り組んでいるかということ、それぞれあると思いますけれども、そういった取組をしております。

(杉谷教育長) 加えて、保幼小連携の意味も若干持たせながら、児童生徒支援課の方で、つながりはどうなるかということを見るのと、保幼での遊び中心の生活から学びになったときに、困難を抱える子がそれまで見えなくても、出てくる可能性もある。すべての1年生の学級を指導主事が行って、見さしてもらうと。1学期中にしております。定期的にやっていく中で、もちろん、早くから小学校の生活に適応できるということが一番なのですが、何かしらの障がい、何かは別として、適応できにくい子を早めに見つけて、その子に合った支援をしていく。先ほどおっしゃった、うまく小学校生活に馴染んでいくためには必要だろうということで、今年からスタートしている状況でございます。その成果が今は、まだちょっとわからないのですが、いろいろな角度から、見てきているという状況があります。他にありませんか、高橋委員。

(高橋委員) 幼稚園と保育園の問題で、幼稚園に入れるお母さん方少ないと、アンケートなどをされましたけれど、なぜ、保育と教育が違う中で、教育、幼稚園がこんなに素晴らしいのですけれど、お母さんたち、なぜ入れないのかということは、聞かれたのかと。例えば、働いているお母さんは、3時に帰ってこられても、子どもを迎えにはいけない。となると、これを延ばしたとしても、それでも幼稚園に通わせませんとなったときに、何が違うというのか。アピールしていないのかどうなのか。私は、3人子どもがいますけれども、上2人ときは働いていなかったのが幼稚園に入れました。一番下の子のときには、働いていたので必然的に保育園に入れました。やはり、その3時で帰ってくるとか2時で帰ってくるとなると、ちょっと預けられないという思いだったので、働いた場合には、保育所でした。延ばしたのですけれども、どちらに通わせますかとなったときに、やっぱり保育園っていうふうに、今は、なっている状況じゃないかなと思います。幼稚園のすばらしさが、まだ、出てきてないという気がします。しっかりとポイントを押さえられないと、だらだらと子どもだけが減っていくだけじゃないかなというふうに思いますし、幼稚園がなくなる。確

かに、教育と保育は全く違うので、教育の部分を出雲市として、しっかりやっていきたいということであれば、そこをしっかりとお母さん方、今の若い方たちにアピールしていく必要があるのではないかと思いますのですが、このアンケートに対してそういうことを聞かれたかどうか、何かあったかと思うのですが、預けない理由は何か、そういうポイントを押さえているかがちょっと気になります。

(杉谷教育長) 園山課長。

(園山保育幼稚園課長) アンケートもやりながら、お話を聞く中で、3歳までは幼稚園に預けられないので、まずは保育所に預けると。そのまま、その保育園で、預け続けると。人間関係、親子間、子どもさんの関係もあって、幼稚園に預ける人というのは、ほとんど今いないというような状況がございます。アピールが足りないというところも、おっしゃるところもあるのかなと思います。預かり保育をやっていることを知らないという声も聞いております。各幼稚園の方で、周知を図っているところなんです。大きな違いは、夏休み預かってくれるのですが、給食がないため弁当を準備していただくということがあります。それが非常に負担だというような声も聞いております。その中で、弁当をあっせんするような取り組みをしている園もありますけれども、大きな成果にまだ繋がっていないところなんです。市として幼稚園のしっかりとした教育を残していきたいというのはあります。けれども、人数が少ない中での集団教育というところを考えたときに、果たして何人、1桁の人数で混合学級になると、子の1年というのは大きく違いますので、3歳、4歳、5歳が一緒に教育を受けるというところの弊害もある、逆にいいところも当然あると思いますけれど、そういったところで、各地域で話をしてもらって、できれば存続したうえで、集団教育の場を提供したいと思っております。認定子ども園化が進まない理由、保育所からの話もしたのであるけれども、保育所側は、定員を増やしていくというところを第一にやられました。その上で、弾力化ということで、こちらの方に重点を置いたということが、今まであったということを補足させていただきます。

(杉谷教育長) 他にはいかがですか。布野委員。

(布野委員) 私、個人的なことかもしれませんが、やっぱり子どもを持ったときに、0歳児から預けるというのが、この子にとっていいことなのかどうか。愛情とか、1年間はやっぱり、子どもと一緒に、お乳をあげたり、離乳食を食べさせたりが一番だと思うのです。そこにすごくお金がかかるのであれば、そこに私は行政が支援するべきだと思うのです。子どもを産んでも、ちゃんと行政が見てくれるというふうになれば、反対に、もっと家で子どもと一対一で、本を読み聞かせもできるだろうし、今、男女共同でお父さんも、育児もやるし、料理もやるようになった。いろいろ、女性が今までやってきたことを男性の方もやるようになっていく。時代が変わってきているので、反対にそこに注目点において、子どもが保育園だと、朝8時として夕方は6時、そのあと食事をして子どもと顔を合わせる時間が本当に2時間ぐらいしかないです。私はちょっと

疑問符というか、今の子育てというところには、おかしい方向性に行っているのではないのかなと。先生方も、一生懸命努力されています。保育園の先生方も、本当にわが子のようにいろんなことをされています。私も行く度に感心するばかりですけども、また、いろいろと議論していく場があれば、したいなと思っています。

(杉谷教育長) 子育てへの支援という話をされました。例えば、0歳の間はっていうこともありますでしょうし、子どもがどう育っていくかっていう、この子、子育ての面からしたときに、今問題提起というのはあろうかと思います。幼稚園を空床の問題というよりは社会全体の課題としてこれはととらえるべきだろうというふうに思いますけど。実際、子どもたちがどういうふうに育っていったのかっていうことが、見ることであれば、一番、そこが根拠になって、施策を考えられる部分かなというふうにもあります。大事な指摘かとは思いますが、また、議論できる場があればというふうに考えます。ちょっと時間の都合上申し訳ありません。次に進ませていただきます。次に、「報告（2）第4次出雲市子ども読書活動推進計画（案）について」、出雲中央図書館 黒田館長から説明をお願いします。

(黒田館長・蒲生係長 資料を用いて説明)

(杉谷教育長) それでは先ほど計画案について概要を説明いたしましたけれども、ご質問ありましたらお願いいたします。川田委員。

(川田委員) ひとつだけ質問があるのでですけど、ブックスタート事業についてどういう事業なのでしょうか。

(杉谷教育長) 蒲生係長。

(蒲生係長) ブックスタート事業ですが、絵本を通した親子の触れ合いということで、愛着形成や虐待防止を図るために、4か月児健康診査の際に、絵本と絵本リストを手渡します。並行して、ボランティアが実際に読み聞かせを実演しまして、こういった形で読み聞かせをして、愛着とか、愛情を育んでいくのだよということを実演しながら進めていくというものになっております。

(杉谷教育長) 川田委員。

(川田委員) 知らなかったです。我が子たちが小さい頃、2人成人していますけれど、生まれたときに市からいただいた本があって、それは、これに含まれるわけですか。

(蒲生係長) それが、ブックスタート事業になるものです。

(川田委員) ありがとうございます。

(杉谷教育長)ブックスタートという言葉は前からあるのですか。

(蒲生係長)以前からあります。

(杉谷教育長)どうぞ。

(布野委員)発達障がい児さんには、どのように本の貸し出しを。障がい児の子どもさんと関わったり、送迎したりしているときに、熱心に本を読んでいる。どんな本を読んでいるのか、見せてもらおうと、すごく難しそうな本を読んでいる。すごいなと感心している。こういった方針で、子どもにあった本を選んでいるのでしょうか。

(杉谷教育長)蒲生係長。

(蒲生係長)ひとつの例になるのですけれども、絵本に限らずですが、特定のわかりやすい本や興味を持ちやすい本などがどうしてもあります。そういったことを踏まえたりすることもあります。もう一つ、私ども本を使わずに語るというものをしております。そういったものにかかなり興味を持っていただくこともございますので、いろいろな方法で興味を持てただけしたもの、お話したりとか、説明したりという形にはなるのですけれども、お一人お一人違ってきますので、取り組みとしては主に学校になのですけれども、依頼を受けて派遣したりですとか、依頼を受けた際にお話をしたりとか、しております。

(杉谷教育長)奥委員。

(奥委員)計画に沿ったことではないのですけれども、図書館というのは、蔵書がありますので、レイアウトをいろいろ変えたりすることは難しいのでしょうか。

(蒲生係長)あまり急に変えたりすると、どこにあるのかわからないということがあるかもしれませんが、展示などで特集を組んだりとかして、集めた本棚だとかで、新たに薦めたりとか、そういった形で変更はよく行っております。本を移動させるわけではないのですが、ブックリストといった形で紹介とかもしております。

(奥委員)私も、中央図書館を利用することがあるのですが、いわゆる読者の方が座っている配置を変えたりとか、そういうふうな工夫をされたりすることがあるのですか、お考えのところがありますか。

(蒲生係長)過去には、何回かあります。

(奥委員)蔵書は難しいのでしょうか。

(蒲生係長) 多少の動きは、実はやっております。死角にならないようにするべく、分類を変えたりですとか、すぐに探してでも行かれるものは、別の場所へ移動させたりとか、大人が見守りしやすいようにしたりとか、そういうことは多分に行っております。

(奥委員) わかりました。

(杉谷教育長) パブリックコメントもあるようでございますし、本日は、概要版で説明いたしましたけれども、本編もありますので、ご覧いただいて、意見等ありましたら、お寄せ頂きたいと思います。次に、「報告（３） 教育委員会の後援について」、教育政策課 栗原課長 に説明をお願いします。

(栗原教育政策課長) (資料を用いて説明)

(杉谷教育長) このことにつきまして、ご質問ございませんでしょうか。

(各委員) なし。

(杉谷教育長) 以上で報告事項を終わります。

６ 次期教育委員会の開催時期

(杉谷教育長) 次期、教育委員会の開催時期についてですが、９月２６日木曜日午後２時から、となりの３階庁議室で開催したいと思います。よろしく願いいたします。今日も布野委員の方から議論ができたかと要望もありましたが、時間的にとれるような日でありましたら、いろいろな点について、意見交換させていただけたらと思います。行政報告の中に少し記載しておりましたが、義務教育学校の視察を行っておりますので、報告をさせていただいて、新たな特色ある学校づくりについての考えについて、意見交換できたらと考えております。時間の方を設定させていただきたいと思います。では、以上をもちまして令和６年８月、出雲市教育委員会定例会を閉会といたします。

(栗原教育政策課長) 皆様、ご起立願います。一同 礼。

【閉会】（午後３時２分）

令和6年(2024)8月教育委員会定例会(秘密会) 会議録

令和6年(2024)8月20日(火)午後3時05分、出雲市教育委員会定例会を出雲市役所3階大会議室に招集した。

(1) 会議に出席した者

教育長	杉谷 学
委員(教育長職務代理)	高橋 詠
委員	川田量子
委員	奥 康人
委員	布野和弘

(2) 欠席した者

なし

(3) 説明のため会議に出席した者

副教育長	金築健志
教育部次長(児童生徒支援課長)	山崎 創
教育部次長(学校教育課長)	矢田和則
教育政策課長	栗原真奈美
教育施設課長	古川 薫
学校給食課長	山内泰治
出雲科学館館長	鬼村修治
学校教育課主査	岩崎慎一
学校教育課課長補佐	園山正樹
児童生徒支援課課長補佐	小林 剛

3 会議の書記

教育政策課課長補佐	池尻精二
-----------	------

4 傍聴者

0名

開会

(杉谷教育長) それでは、令和6年8月出雲市教育委員会定例会を再開します。審議に入ります前にお諮りいたします。「議第33号 令和7年度から令和10年度 中学校において使用する教科用図書の採択について」は、出雲採択地区教科用図書採択協議会において、情報公開の期日が令和6年8月30日と決定されております。出雲市教育委員会会議規則第16条第1項ただし書きの規定に基づき、この議題の審議を秘密会とし、会議を公開しないことを発議

いたします。これにご異議ありませんか。

(各委員)なし。

(杉谷教育長)ご異議ございませんので、この会議については、秘密会とすることに決定いたしました。なお、今回の秘密会の会議録については、来月の定例会でお諮りする予定としておりますので、お願いいたします。

1 議事

(杉谷教育長)それでは、議事に入ります。「議第33号 令和7年度から令和10年度 中学校において使用する教科用図書の採択について」を議題といたします。これについて、学校教育課 矢田次長説明願います。

(矢田教育部次長)(資料を用いて説明)

(杉谷教育長)大変、駆け足で説明させていただきました。合同の調査研究の中で、2市2町の代表者の中で選んだものです。最終的に教育委員会に権限がありますので、協議会で選定したものがこれでよしとしていただくこと、かつ、2市2町の教育委員会でそれぞれ承認するというのであれば、来年度からお示した教科書を中学校で使っていただくということになります。質問と言うことは難しいかもしれませんが、お受けしたいと思いますが、いかがなものでしょうか。あるいは、感想でも結構ですが、いかがでしょうか。奥委員。

(奥委員)ICTとかと教科書が併用となると思います。教科書が大きいですが、机におさまりますでしょうか。机の大きさが大丈夫かと言うことが心配です。

(杉谷教育長)山崎次長。

(山崎教育部次長)教科書も使いながら、ICTも使いながらと現場を見てきているのですが、おっしゃるとおり、教科書載せて、タブレットを開くと、現在の机のサイズでは、狭いです。これは、仕方がない部分もあるので、指導者が意図して、今は、ICTを置いておいて、教科書を見ましようとか、逆にICTを見て、教科書を見ましようかと振り分けをするようにしています。

(奥委員)ありがとうございました。

(杉谷教育長)いかがでしょうか。川田委員。

(川田委員) 2、3年上と2、3年下と、美術とかなっていますが、どういうことでしょうか。2年と3年いつやってもいいということでしょうか。

(杉谷教育長) 指導計画を学校で作成して、何年生の何月にこの題材を扱いますということですので、上とか下、上が終わったら下に行くとは必ずしもそういうことではなくて、その中で、2、3年の2年かけてやっていくということであろ
うかと思います。教科書のつくりとしての特徴だと思うのです。

(川田委員) ありがとうございます。わかりました。

(杉谷教育長) 高橋委員。

(高橋委員) 英語の大きさはいつごろからこの大きさでしょうか。特に英語とか書いたりが増えたりすると思うのですが。その他は、こんな感じの大きさだったと思うのですが。

(矢田教育部次長) 前回もこの大きさです。

(高橋委員) 机の大きさが問題だと思うのです。美術とかは机が大きいのでいいと思うのですが。でも、全体的に見やすいです。

(杉谷教育長) 指導する先生方の考え方で、毎時間すべてのものを開いているということはないのです。タブレットを使ってする学習が主であればそちらをメインで使うと思います。そのときには、教科書やノートは、一旦机の中と言うこともあろうかと思います。

(高橋委員) 分厚くなくていいと思います。

(杉谷教育長) 英語は、特に精選された。ただし、A版とかはそれぞれの会社の考え方ですので、バラバラとなっています。統一がなかなかできていないというのが、実態です。小学校の教科書もそうですけれど、持ち運びすることは大変かもしれません。それでは、今の報告に対して、疑義がなければ「議第33号 令和7年度から令和10年度 中学校において使用する教科用図書の採択について」について、承認することに対して、異議はございませんでしょうか。

(各委員) なし。

(杉谷教育長)「議第 33 号 令和 7 年度から令和 10 年度 中学校において使用する教科用図書の採択について」を承認といたします。

閉会

(杉谷教育長)以上をもって、秘密会の議事については終了させていただきます。
ありがとうございました。

【閉会】(午後 3 時 50 分)